

審議結果

審議会等名称：総合計画審議会 部会グループ会議（グループB）

開催日時：平成30年4月24日（火）9:30～11:30

開催場所：神奈川県庁新庁舎 5階 5C会議室

出席者：◎内田裕久、山本篤民、杉田敦、岩田知二、能登ゆか〔計5名〕

（◎座長）

問い合わせ先：政策局政策部総合政策課計画G 小澤

電話番号045-210-1111（内線3066） ファックス番号045-210-8819

審議経過（議事要旨）

◎ 事務局より、資料「プロジェクトの評価及び神奈川の戦略取組状況について」に基づき、プロジェクトごとに数値目標の達成状況、事業の取組み状況、社会環境の変化を表す指標などを踏まえた総合分析や今後の課題と対応方向について説明を行い、「総合計画審議会の二次評価」の欄に記載すべき事項として、二次評価における区分やそれに付記すべき意見、プロジェクトを推進する上で対応が求められている課題や政策運営の改善を図る事項について議論をお願いした。

プロジェクト5 エネルギー

【主な発言】

- 内田座長：神奈川は電気自動車の導入が全国トップである。世界が電気自動車の導入にシフトする中、電気自動車の導入が全国トップであるという神奈川の強みを指標として取り入れるとともに、アピールしていく必要がある。
- 内田座長：再生可能エネルギー等の発電出力について、神奈川は水力発電が全国の自治体の中でトップであることも含めてアピールする必要がある。
- 内田座長：太陽光パネルの設置について、固定価格買取制度の見直しが進む中であって、厳しい環境であるが再生可能エネルギーの普及・促進に取り組む必要がある。
- 内田座長：太陽光発電と合わせて、蓄電池の導入の促進を図り、省エネにもつなげる取組みを進めていく必要がある。
- 内田座長・杉田委員：取組みにかかる予算規模を示す必要がある。

- 岩田委員：再生可能エネルギーに対する財政支援など神奈川県が他県に比べて、より重点的に支援している姿をアピールしていく必要がある。
- 岩田委員：太陽光発電の伸びなどの成果が県の取組みによる成果なのか、民間の主体的な取組みによるものなのか、できるだけ明らかにしていく必要がある。

【内田座長まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は「概ね順調に進んでいます」とする。
- 数値目標の達成状況は未把握ですが、再生可能エネルギーのさらなる導入など取組みは進んでいることから、県の一次評価は妥当であり「概ね順調に進んでいる」と評価する。
- 固定価格買取制度の見直しなど、再生可能エネルギーを取り巻く環境が変化している中であっても、より一層の普及に向けた方策を検討していく必要がある。

プロジェクト6 産業創出

【主な発言】

- 山本委員：ロボットの実証実験件数はどのような定義なのか示す必要がある。

【内田座長まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は「順調に進んでいます」とする。
- ロボットの実証実験件数が目標を大きく上回るとともに、生活支援ロボットの商品化が進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価する。

プロジェクト7 海外展開

【主な発言】

- 内田座長：ドイツとの交流を含め、先進国との交流についても、さらに進めていく必要がある。
- 内田座長：日本の中小企業は海外にあまり進出していない。それを引っ張り出していくことは大変だが工夫をしていく必要がある。
- 内田座長・能登委員：県民ニーズ調査の国際交流が重要だと思う人が半分以下であり、これを改善していく必要がある。
- 能登委員：中小企業の国際展開については、海外進出ではなく、共同出資の合弁会社設立や外国の企業とのライセンス契約などへの支援も必要である。

- 内田座長・岩田委員・能登委員：ベトナムだけでなく、幅広い視点で、いろいろな国との交流の実績を積み上げていく必要がある。
- 山本委員：数値目標②について、具体的に何を示しているのか、何をもちて件数を数えているのか、わかりにくいので分析欄に記載する必要がある。
- 内田座長：海外展開のプロジェクトでベトナムを重視する理由をわかりやすく示す必要がある。
- 岩田委員：神奈川の企業がどれだけ海外展開を図っているかを、明らかにするデータを示す必要がある。

【内田座長まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は「概ね順調に進んでいます」とする。
- 外国企業の誘致や国際機関との連携は進んでいますが、中小企業の多様な海外展開ニーズに応じた支援を行う必要があることや、県民ニーズの動向において、「民間の国際交流・協力活動が活発であること」を重要だと思う人の割合が低いことなどからプロジェクトは「概ね順調に進んでいる」と評価する。
- 国際交流の重要性に関する県民意識の向上につながる取組みを進める必要がある。
- 経済のグローバル化に対応した企業支援については、海外進出支援だけではなく、国内の取組みも含め、様々な形態の支援を進めていく必要がある。
- 中小企業の海外展開ニーズをよりの確に把握し、効果的に取組みを進めていく必要がある。

プロジェクト8 観光

【主な発言】

- 内田座長：人口が減少している地域などは、観光のみならず他の分野でも活性化しないといけない。県が掛け声を掛けても、現地が動かないと難しいので、地元・地域と県が一緒になってやっていくような「地域との連携プロジェクト」を取り入れていく必要がある。
- 能登委員：前年度の指摘事項にあった「民泊」への取組み状況について示す必要がある。
- 内田座長：「観光立県かながわの実現をめざして」というねらいの達成度を測るには、観光客数以外の指標についても検討していく必要がある。

【内田座長まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は「概ね順調に進んでいます」とする。

- 海外の国際観光展への出展や県外での PR イベントの実施など国内外からの観光客誘致や新しい観光魅力づくりが着実に進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価する。
- 観光振興が地域活性化にもつながるよう、県と市町村が連携した取組みを引き続き推進していく必要がある。

プロジェクト9 マグカル

【主な発言】

- 岩田委員：「効果的な広報が課題」とあるが、県民のために取り組んでいるのに、県民に認知されていないのであれば、改善していく必要がある。
- 山本委員：文化芸術に親しむ機会は、格調の高いものから、親子音楽会や親子劇場などニーズも様々だと思う。どこが満たされていないのかを調べることで、どこにポイントを置くのか、どこの地域でということ进行分析して対応する必要がある。
- 能登委員：都心から離れていたとしても、個性的な音楽村や芸術村があったら人を呼び込めるのではないかと、といった視点を持つ必要がある。
- 内田座長：文化芸術に関するマグネット力は横浜や川崎など県の東が強く、そこから離れると弱い。全県域が横浜や川崎と同じである必要はないが、県西地域などの住民も満足できるよう取組みを展開していく必要がある。

【内田座長まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は「概ね順調に進んでいます」とする。
- 「神奈川文化プログラム」の認証や舞台芸術を担う人材の育成が進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。
- 県民が求めている文化芸術に関するニーズを把握・分析し、県として必要な施策を展開する必要がある。
- 県内全域で文化芸術に親しめる環境への満足度が高まるよう、取組みを展開していく必要がある。
- 県民にマグカルの取組みがさらに伝わるよう、より効果的な情報発信に努めていく必要がある。

プロジェクト10 農林水産

【主な発言】

- 内田座長：その他社会環境を表す指標である県産木材生産量の推移については、この指標を用いる意義として、担い手の問題、機械化等の問題、経済的効果を記載する必要がある。
- 岩田委員：数値目標の数値等が小さいので、経済効果がどのくらい得られるのか、数値で示す必要がある。
- 岩田委員：地域性などを踏まえながら、新たな担い手を育成することが必要である。
- 能登委員：県民ニーズで「地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること」に満足している人の割合が低いことから、特産品を県民に知ってもらい、増やしていくことが必要である。
- 内田座長・岩田委員：特産品によっては、希少で買えないものがあるため県民に浸透せず、県民ニーズの満足度向上につながっていないことが考えられるため、県の特産品を県民に身近なものとして安定生産を図る必要がある。

【内田座長まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は「概ね順調に進んでいます」とする。
- 差別化商品とし県が育成した野菜などの新たな販売契約数や、県産牛乳の商品開発などにより畜産ブランド数が目標を上回るなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価する。
- 技術革新による生産性の向上や集約化により、生産体制を充実させ、農林水産物に対する県民の認知度向上に向けた取組をより一層進める必要がある。
- 農林水産業の担い手の育成・確保にあたっては、新たな担い手が不足しているなど各地域の特徴を踏まえて対応する必要がある。
- 農林水産業の振興による本県経済への寄与を検証する必要がある。